

自然災害は待ってくれない～日頃から災害に備えよう～

災害は、いつ襲ってくるかわかりません。いざという時、迅速に行動できるよう災害に備えましょう。

災害への備え万全ですか？



雲南地区総合防災訓練

防災週間（8/30～9/5）にあわせ、9月3日、木次町下熊谷の斐伊川河川敷を会場に、平成17年度雲南地区総合防災訓練が実施されました。

訓練は、「雲南市内で風水害、大規模震災が発生した」という想定で行われ、地域住民の防災意識の向上を図るとともに、関係機関が有事の際に迅速・的確な災害活動ができるよう実施されました。

今回の訓練には、島根県や国土交通省、雲南地区の1市2町、地元消防団、陸上自衛隊、日本赤十字社、雲南警察署・消防本部など39の関係機関と雲南市民のあわせて約600人が参加しました。

風水害は、「雲南地区に大雨洪水警報が発令され、土砂災害や河川増水・氾濫により、



家屋等に被害が発生している」という想定で、大規模震災は、「松江市南方を震源とする地震が発生し、雲南市では震度6強を観測。家屋の倒壊や火災をはじめ道路・橋梁の損壊、上水道施設やガス、電気関係施設にも大きな損害が発生している」という想定のもとにそれぞれ行われました。

会場では、想定に基づき被災地上空・地上からの状況調査や情報伝達、消防団による水防活動、被災住民の救助・避難誘導、火災家屋への消火活動、ヘリコプターによる救出などさまざまな訓練が展開されました。



市では、今年度、消防・防災・安全対策として「雲南地区防災計画」の策定に着手しているほか、水害時の浸水予想区域など設定した「ハザードマップ」作成にむけ、国や県など河川関係機関と協議

また、救護所となった下熊谷地域福祉サブセンターでは、負傷者の救護活動、自衛隊による炊き出し、緊急物資搬送なども実施されました。

このほか、過去の災害写真のパネル展示や排水ポンプ車の公開、応急手当講習会などもあり、参加者や来場者が、防災意識を高めるためのよい機会になりました。

閉会式で、訓練本部の本部長を務めた速水市長は「災害は起こってはなりません、万が一発生した際、今日の体験を生かし、迅速で的確な災害活動と関係機関による広域的な連携で、万全を期した対応をしていきたい」と話し、訓練を終了しました。

市では、今年度、消防・防災・安全対策として「雲南地区防災計画」の策定に着手しているほか、水害時の浸水予想区域など設定した「ハザードマップ」作成にむけ、国や県など河川関係機関と協議

日頃の備え

●災害後の生活を支える非常用品を備え、すぐ持ち出せる場所に置いておきましょう。

●非常持出品：水、ビズケット、ラジオ、貴重品、懐中電灯、電池など

●非常備蓄品：米や飲料水、非常食（乾パンや粉ミルク）など最低3日分。定期的な入れかえも必要です。



●避難場所や避難経路、家の周りの河川や裏山などの危険箇所を確認しておきましょう。

●家庭内の大きな家具は、転倒防止のため、トメ金などで固定しておきましょう。また、食器棚などには、ガラス飛散防止フィルムなどを貼りましょう。

●石垣やブロック塀などのひび割れや崩れを修理し、また側溝や雨どいなどのごみは取り除き、流れをよくしましょう。

●医療品や消火器はどこにあるか、「避難場所や避難経路はどこか」「緊急時の連絡先」など家族で災害について話し合しましょう。

風水害 集中豪雨や台風が接近したら

●外出は控え、ラジオやテレビの気象情報に十分注意しましょう。

●浸水に備えて貴重品や洋服、寝具などを高い場所に移動させましょう。

●河川の氾濫やがけ崩れ、土石流などの前兆に注意し、危険を感じた時には、直ちに避難してください。

●避難時に、高齢者や子どもがいる場合は、地域の人たちが協力し合いながら円滑に避難活動をしてください。



地震 大規模地震が発生したら

●まず、わが身の安全を確保して下さい。そして、すぐに電気・ガス・火のものを安全を確認しましょう。

●窓や扉を開けて出口を確保しますが、あわてて外に飛び出さないようして下さい。

●避難する場合は、近所で協力しながら、できるだけ集団をつくって避難してください。また、負傷者がいる際は応急救護を、火災が発生した際は初期消火を、忘れずに行いましょう。

●震災後は、緊急車両が通行したりするため、車での移動は極力控えてください。また携帯電話の使用は最小限にしましょう。

●地震発生後の5分間が重要ですので、落ち着いて行動しましょう。



災害時の雲南市の体制

風水害や大規模震災発生時には、雲南市災害対策本部を設置し、市役所職員や地域の消防団などが、情報収集や災害対応にあたるほか、自衛隊や消防本部などと連携し、被災地への応急復旧対策に取り組みます。

災害用伝言ダイヤル「171」被災地連絡用

災害により電話が通じなくなった時、「171+1+自宅の番号」番でメッセージの録音。「171+2+自宅の番号」番でメッセージの再生することができます。

「自分の生命、財産は自分で守る」、「地域のことは地域で守る」という意識のもと、いざという時に、迅速に行動できよう災害に備えましょう。